



Topics 1

1歳ワクチンの接種スケジュールの実態

乳児期に接種するワクチンは2013年にヒブワクチン、小児用肺炎球菌ワクチンが定期接種となり、B型肝炎ワクチンやロタウイルスワクチンが広く保護者に認知され、「ワクチンデビューは生後2か月の誕生日」を合言葉に当会が推奨する接種スケジュールに準じて接種が進められています。一方、1歳から接種するワクチンをみると、ヒブ、小児用肺炎球菌、四種混合ワクチンの追加接種や水痘、おたふくかぜワクチンの初回接種率は低く、MRワクチンの接種率と乖離が見られます。今号では、1歳で受けるワクチンの接種方法について考察しています。

当会が提供している「予防接種スケジュール」アプリは、2011年の開始から累積で71.8万人のダウンロードがあり、毎月1万人以上が新たに利用しています。データ提供に同意した利用者のデータから、2012年8月*から2015年2月出生児の接種実績データをもとに1歳で受けるMR1回目、水痘1回目、おたふくかぜ1回目、ヒブ4回目、小児用肺炎球菌4回目、四種混合4回目の6ワクチンについて、接種実態をまとめました。

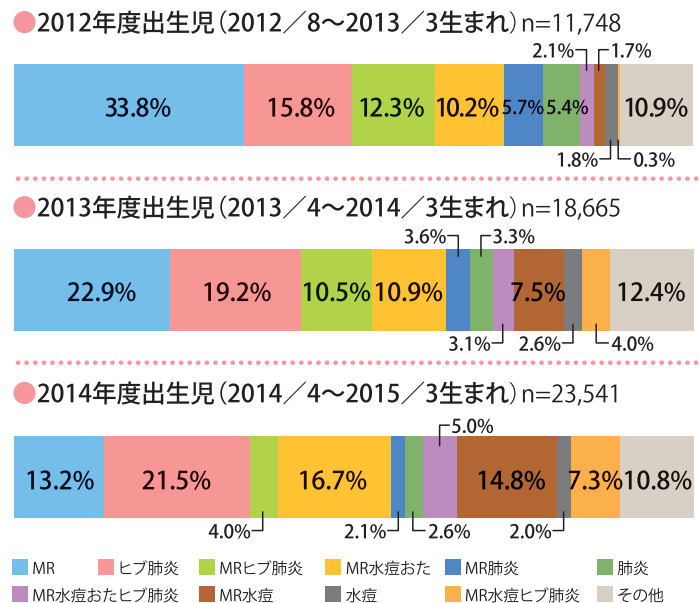
*四種混合ワクチン使用開始が2012年11月のため2012年度出生時の対象を2012年8月～2013年3月とした。

● 1歳最初のワクチンは接種パターンが多い

1歳代で受けた6ワクチンの組み合わせは、対象の3年間で実に57パターンがありました。出生児の年度別パターン数は、2012年度(2012年8月～2013年3月出生児)50パターン、2013年度(2013年4月～2014年3月出生児)51パターン、2014年度(2014年4月～2015年3月出生児)53パターンといずれも多いことがわかります。

接種者のうち2割以上が受けているパターンはどの年度でも1パターンずつしかなく、1割以上が受けているパターンも4パターンしかありません。それぞれの接種医によってスケジュールが異なり、標準的なスケジュールのパターンがないことがわかります。

1歳初回ワクチンの組み合わせ (n=53,954)



● 水痘定期化でワクチン組み合わせに変化

1歳からのワクチンの最初の接種の組み合わせには、この3年間で大きな変化がありました。

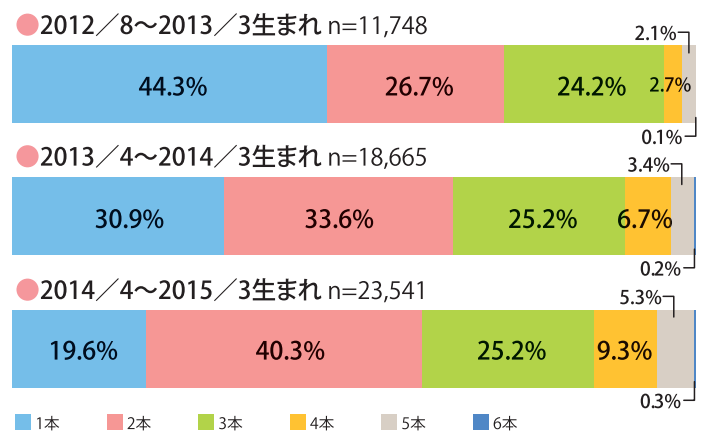
2012年度出生児では、「MR単独」(33.8%)、次いで「ヒブ・肺炎球菌」(15.8%)でしたが、2014年度出生児では、「ヒブ・肺炎球菌」(21.5%)、次いで「MR・水痘・おたふく」(16.7%)となっています。水痘の定期接種化後は、「MR単独」(33.8%→13.2%)と「MR・ヒブ・肺炎球菌」(12.3%→4.0%)が大幅に減り、代わって「ヒブ・肺炎球菌」(15.8%→21.5%)、「MR・水痘・おたふくかぜ」(10.2%→16.7%)、「MR・水痘」(1.7%→14.8%)が増加しました。

これまで「MR単独」または「MR、ヒブ、肺炎球菌」の定期接種を同時接種のパターンが、「ヒブ・肺炎球菌」、「MR・水痘・おたふくかぜ」、「MR・水痘」の組み合わせパターンにシフトしたことが推測できます。

● 1歳最初のワクチンの同時接種本数

1歳代で受けるワクチンの初回接種時の同時接種本数にも、水痘ワクチンの定期接種化によって変化がありました。MRワクチンなどの単独接種が2012年度出生児には半数近くありましたが、2014年度出生児には約2割となっています。反対に、2本同時接種が1.5倍(26.7%→40.3%)、4本以上の同時接種が3.5倍(2.7%→9.3%)となっています。さらに、5本以上の同時接種も増加しています(2.2%→5.6%)。

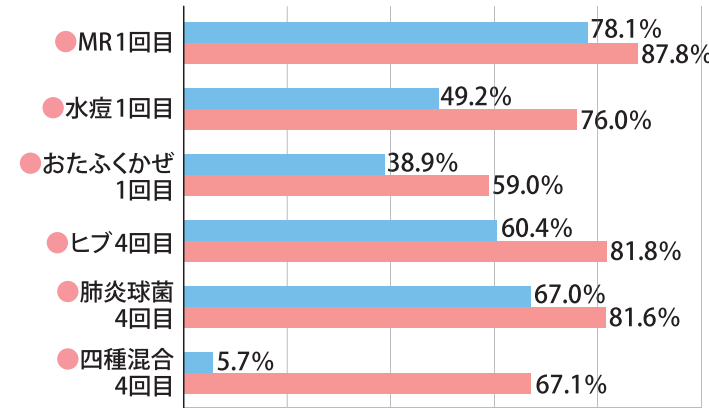
1歳初回ワクチン同時接種本数 (n=53,954)



Topics 2

ワクチンスケジュールと接種率

1歳ワクチンの接種率 (2012/8-2014/3出生児 n=33,145)



「予防接種スケジュール」のデータ提供に同意した利用者の接種実績データからは、各ワクチンの接種率の傾向がわかります。15か月齢時、24か月齢時での各ワクチンの接種率には差があります。24か月齢でのMRワクチンと四種混合ワクチンの接種率には約20%もの差があり、この差は1歳からのワクチン接種のスケジュールに問題があると推測されます。1歳から接種するすべてのワクチンを、できるだけ1歳代の早期に接種することが重要です。

当会では、受け忘れをなくし、効率的に接種するための予防接種スケジュールを提案しています。今後もより理想的な接種スケジュールによって接種率向上を図るべく、検討をすすめていきます。

■ 15か月齢時の接種率 ■ 24か月齢時の接種率

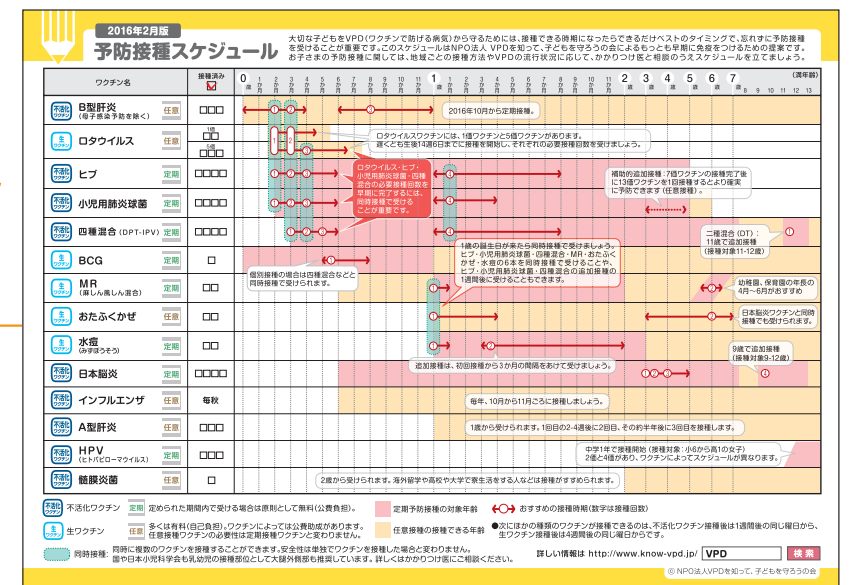
NPO法人VPDを知って、子どもを守ろうの会が提供する無料アプリ「予防接種スケジュール」の利用者のうち、予防接種実績データの自動収集に同意いただいた利用者から登録データを取得した。

■ データ取得日: 2016年3月1日 (同意者数186,635件)
 ■ 解析対象者: 2012年8月1日から2015年2月28日出生児のうち、1歳代でMR、水痘、おたふくかぜ、ヒブ、小児用肺炎球菌、四種混合ワクチンを接種した者 (対象者人数53,954人)
 ■ 調査主体: NPO法人VPDを知って、子どもを守ろうの会、ドコモ・ヘルスケア株式会社

Report 1

「2016年2月版」予防接種スケジュールを改訂

B型肝炎の定期接種化の時期が発表され、「予防接種スケジュール」のB型肝炎の推奨時期を変更しました。これまで生後9か月だった3回目の推奨時期を定期接種に合わせて8か月に変更しました。



出演 & 記事 & 取材協力

- 東京新聞(2015.10.4)
- 毎日新聞(2015.10.24)
- 山陽新聞MEDICA(2015.11.1)
- NHK「クローズアップ現代」(2016.1.27)
- Medical Tribune(2015.12.25)
- マイナビニュース(2016.2.15)
- 「小児・重症児者の訪問看護」(中央法規出版)
- 「ビズマム」夏秋号(ベネッセコーポレーション)
- 「たまごクラブ」1月号(ベネッセコーポレーション)
- 「TJMOOK 赤ちゃんができたらもらえるお金の話」(宝島社)
- 「AERA with Baby」2月号(朝日新聞出版社)
- 「赤ずぐ」3月号(リクルート)
- 「FMみやぎき こどもお助け救急BOOK」
- 中国新聞タブロイド判「Cue」
- 「Happy Note」特別号
- 「エンジェリーへ通信」2016春号
- 香川県医師会予防接種週間ポスター